

行政視察報告書（創生会）

提出日：令和5年10月28日

会 派 名	創生会
日 時	令和5年10月25日（水）13：00～16：30
相手先・場所	第18回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州 会場：西日本総合展示場 新館
内 容	1 基調講演 「躍動的でワクワクする市議会に」 講演者 片山 善博 氏 [大正大学教授・地域構想研究所長] 2 パネルディスカッション 「統一地方選強の検証と地方議会の課題」 コーディネーター 谷 隆徳 氏 [日本経済新聞編集委員] パネリスト 勢一 智子 氏 [西南学院大学法学部教授] 辻 陽 氏 [近畿大学法学部教授] 濱田 真理 氏 [Stand by Women 代表 女性議員のハラスメント相談センター共同代表] 田仲 常郎 氏 [北九州市議会議長]
成果・所感等	
(1) 取り組み内容（聞き取り内容） 1 について ○地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革を検証する ○日本の地方議会にかけていることは何か ○原稿の議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべきこと ○議会の常識と市民の常識をすり合わせる—市民が首を傾げることは 2 について 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」	
(1) 視察で感じたこと等 1 について ・議案の丁寧な審議が必要（執行部の説明を鵜呑みにしない➡裏を取る） ・市民の意見を聞く場を条例で作る（時には、議会が主体となってアンケートを取る） ・教育は国の最大の課題➡教員の多忙化を解消（職場環境の改善 ➡職員数を増やす、仕事量を減らす）➡教育委員会の責任（県教委と相談） ・教育委員の責任は大きい（教育に対する情熱を議会に呼んで確かめる） ➡選任同意は議会の責任	

2 について

- ・ 議員提案条例の必要性（政策立案の仕組みの構築）
- ・ 議会基本条例のアップデート ➡ 住民の声を取り入れる仕組みを持つ
- ・ 主権者教育の重要性
- ・ 議会事務局間の連携
- ・ 議会事務局職員数の問題

などについて学びました。当議会においても、取り入れて改善したいと感じた。

視察（研修）報告書

令和5年 10月 27日

府中市議会議長 様

会派名 創生会

日 時	令和5年10月26日
視察（研修）先	福岡県 福津市
視察（研修）項目	津屋崎ランチ
参 加 者	創生会 公明党
視察（研修）内容	移住・交流ビジネス化について（移住支援、起業支援） 1, 移住支援事業：「暮らしの旅」 2, 古民家再生事業「文化継承器づくり」 3, 学習支援事業「集いの場」 4, 担い手支援事業「プチ起業塾」行政の縦割りを超え、本当の暮らし・仕事・交流を目指した、地方創生のモデルとなるプロジェクト。
所 感	津屋崎千軒と呼ばれる町並み再生を行った山口覚氏の講話には多くの町並み再生のためのヒントがあった。福津市は福岡博多への近郊ベッドタウンになるが人口減少の進んだ津屋崎千軒の町並を再生して人口が増減している現実山口氏のたゆまない努力結果である。町並みの価値を見直し、空き家も財産として残す、この町並み再生の道筋の中で山口氏の唱えた世代を超え語り合うことで、その対話の先には未来があるとの言葉に感銘を受けた。町の未来を語り合う津屋崎大交流会（地域懇談会）では大人や子供から本音トークが出るなど、多くの町の課題発見し地域みんなで未来の町づくりを考えることで住民意識が変わり未来の町づくりのために多くの人を呼び込んだ、そしてワクワクする町づくりができたのではないかと感じた。その中で未来会議室の3か条1未来を語る、2人を褒める、3断定しない、この3か条は多様な人が集まり会議をする中で大切な事と感じた。私たちの府中市議会 議員と語る会の中でこの3か条の実践が必要

	と感じた。サイレントマジョリティーという言葉はまさに多くの人の意見を注意深く聞くことにあると考える。今回の津屋崎ランチ訪問は府中市の町並み再生や、上下町の街並み再生のヒントになった。特に上下町の街づくりにおいては行政と住民の力でさらに町並を磨き、質を上げて、観光インバウンドの呼び込みをすることで賑わいづくりができると感じた。
--	--